

令和7年度 第2回 南箕輪村地域公共交通会議
議 事 録

日 時：令和7年10月16日(木) 10:00~11:00

会 場：南箕輪村役場 2階 講堂

議 題：

1. 開会

- ・事務局より開会の辞

2. あいさつ

- ・藤城会長よりあいさつ

●藤城会長
(南箕輪村長)

地域公共交通会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。
今回と次回第3回の2回の会議を使い、村内巡回バスを通学通院に特化したバスに変更していくことについての具体的な協議をお願いしたい。
前回までのおさらいになるが、昨年度、地域交通計画を策定し、今は朝から夕方まで村内を巡回しているバスの運行を朝と夕方に絞り、基本的には高校生の通学と、高齢者の通院に特化したバスに変えるというもので、日中についてはタクシー券の補助を手厚くすることで進めたい。来年4月からスタートさせる予定である。
一昨日、中学生議会というものがあり、その中で新しいバスについての質問があった。「私たちは全員乗るので、もっと大型のバスにした方がよいのではないですか」との提案で、中学生は前向きだと思った。まずは定員の26名乗ってもらうことを目指して進めたい。
本日はよろしく申し上げます。

3. 協議事項

(1) 村営巡回バス(まっくんバス)運行見直し案について

- ・事務局より、資料に基づき説明

●藤城会長
(南箕輪村長)

まず受託事業者から補足があればお願いしたい。

●SCOP 富樫
(受託事業者)

ずいぶん複雑な動きのバスだと感じたのではないかと思います。実際に複雑である。村の高校生、高齢者の通院のことをしっかりと考えると、こういう動きになる。

先般、長野県上伊那地域別部会があり、その中で県の交通計画の上伊那地域編というものの更新作業を進めている。全県の方針としてはすべての県民が学校に通える、病院に通えるということを掲げている。上伊那の部会では主に幹線(JR飯田線や伊那本線バス)を使って、地域内の高校や病院に通えるかどうかの議論にとどまっており、各集落から幹線

までの接続は各市町村内で検討することとなる。それを落とし込んだのが今回の路線である。

これまでのまっくんバスは、高校生の通学にほとんど対応できていなかったため、県の計画を具現化するための仕組みが南箕輪村にはなかったことになるが、今回、県の計画を受けたちょうどのタイミングで、こういう施策ができた。

今回、こういうものを走らせるということを中学生の保護者にリサーチしたところ、こういうものがあるのはありがたいという声が寄せられた。南箕輪は子育て支援に力を入れていると言いつつも、今までこういうものがなかった。高校生の登校を家庭に背負わせるのは負担が大きく、今回のバスによって恩恵を受ける家庭も多いのではないかと思っている。

次にタクシー券助成の関係だが、日中のまっくんバスがなくなるので、それに代わる施策となる。今まではまっくんバスがあって、かつタクシー券もあった。タクシー券があるなら、まっくんバスには乗らないで事足りるので施策が重複していた。今回、日中はすべてタクシー助成になったということで、これも理にかなった方策である。

公共交通機関の役割として不特定多数の人が使えるとうことがあり、タクシー券ではここが不十分ということもあるが、日中のまっくんバスをやめることで費用がタクシーに回せると考えれば、今よりも手厚い施策になるということは理解いただけるかと思う。

まだ運用していないので、どのくらいの稼働があり、財政負担になるかがまだ分からない。従って最初は厳しめに（小さく）始めて、余裕があれば1回当たりの補助額や年間の枚数を増やすなどしていけばよいと考えている。

●藤城会長
(南箕輪村長)

いま南箕輪村では都市計画マスタープランを策定している。その中で過去5年、10年、どこに新しい家が建ったかというのを地図に落としているが、大泉地区と南原地区など村内西部に人が増えている。153号から離れた西側に人が増えているということで、こういった運行経路が効果的と考えている。

タクシー券は、1回何枚使えるかというのも、今後の協議となる。今回の中では明示していないが、今現在は2枚だがそれに固執してはない。協議の中で決めていきたい。

この件について質問をいただきたい。

●畑委員代理
(長野運輸支局)

今回の路線は4条の乗合の許可と思うが、今まで走らなかったところを新しく走るようになる区間があれば、許認可が必要である。この点を確認したい。

●事務局
(小澤主事)

全面的な見直しで、村外にもアクセスするかたちになるので、新しく走る箇所もある。ルートが確定でき次第、認可の手続きを進める。

●畑委員代理
(長野運輸支局)

今回、4月1日からの運行開始と認識している。年度末は申請が集中するため、早めに協議会で協議を調べて事業者で申請書を作り、前倒して動いてもらえるとありがたい。

- 藤城会長
(南箕輪村長) 承知した。
- 白川委員
(白川タクシー) 昼のバス便がなくなることに伴うタクシー券の拡充ということだが、配布に当たっては、まっくんバスが走っていた沿線の人たちだけに増額するのか、村内一律なのか。また、補助額は変わらないのか。
- 藤城会長
(南箕輪村長) タクシー券の配布対象については、居住地や運行ルートによって変わることはなく、一律と考えている。現在は500円券を配布している。配布する枚数や1回に使える枚数を増やす方向で検討を進める。
- 白川委員
(白川タクシー) 伊那市の西箕輪線バスは、南箕輪も費用負担しているはずだが、このコースを見ると伊那市の町なかも走っており、伊那市民も利用可能である。これについては伊那市と協議して負担金をもらう可能性もあるのか。
- 事務局
(小澤主事) 伊那市民も利用できるルートであるが、未確定の案であり、伊那市にはまだ示していない。必要であれば協議していきたい。
- 藤城会長
(南箕輪村長) 西箕輪線の部分は結構な金額を払っているので、検討の余地はある。引き続き考えていきたい。
ところで、このダイヤは実際に走ってみて確認した時間なのか。
- 事務局
(小澤主事) このダイヤは伊那バスさんが試走して作ってくれたものである。
- 藤城会長
(南箕輪村長) 停留所がこの数必要かということも協議したほうが良いかと思う。本日、初めて資料を提示したので、今日はわかりづらいところもあるかと思うが、次回はさらに踏み込んだ議論ができると思う。
また、
タクシー券で拡充したところは、福祉課長にも協議に入ってもらっている。少し補足をお願いできるか。
- 山崎委員
(村福祉課長) 資料3の1枚目だが、タクシー助成と関連して、福祉移送サービスという以前からやっている交通弱者に対する事業がある。このサービスは登録時に保険料千円を納めると、回数制限があるが、障がい者や介護認定者等、足のない方は運賃がかからずに社協に委託をして、社協の職員が移送してくれる事業である。運賃がかからないので、交通弱者はまずこちらを利用する人が多い。台数を増やしたり、予約を増やしたりしているところだが、人気があり、予約がとりにくい状況になっている。
今回の改定では、福祉移送サービスは従来通りでタクシー券のほうを拡充していきたい。対象年齢は75歳から70歳に引き下げ、障がい者もより軽度の方に拡充している。運転ができないことで、社会参加の幅が狭まっている障がい者の社会参加を促していきたいという主旨である。
また、妊産婦にも対象を広げるように考えている。妊産婦は年度に限らず対象になるので、どのように交付するのかは検討中である。

- | | |
|-------------------|---|
| ●竹澤委員
(伊那警察署) | これまでいろいろな公共交通会議に参加し、交通事業者の方々の悲痛な叫びを聞いてきている。昨日も名古屋駅で高齢者の大きな事故があってそれを受けて免許返納に訪れる方もいたが、今後、このような公共交通はますます必要である。縮小傾向になる路線なども多いが、できるだけ継続してほしい。 |
| ●征矢委員
(村区長会) | 朝の時間は道路が混むので、この時間通りでいくのか十分に精査してほしい。
日中のバスがなくなるのを受けて、タクシーの補助を拡充するのはありがたいが、対象年齢を75歳から70歳に下げることが必要かは検討してほしい。70過ぎで不自由な方もいるが、70なら誰でも、というのはなくてよいと思う。 |
| ●服部委員
(伊那バス労組) | これまでのまっくんバスは通学利用はほぼ無かったので、通学で乗ってもらえればありがたい。 |
| ●白川委員
(白川タクシー) | 先ほど福祉移送サービスの話があったが、当社はこの仕組みについて実態を把握していないので、あとで公開してほしい。 |
| ●藤城会長
(南箕輪村長) | この件は公開できるよう検討する。
通学通院バスについての詳細はまた次回かもしれないが、伊那バス福澤さん、もし今話せることがあればお願いしたい。 |
| ●福澤委員
(伊那バス) | ただいま検討を重ねて、修正を繰り返し替え貸しているところである。
細かい時刻、停留所の問題などは今後の話し合い次第ではないかと思っている。詳細について進めていきたい。 |

4. その他

■今後のスケジュールについて

- ・次回会議は12月10日の午前中を予定している。
- ・今回示した内容をもとに、ルートを確定させる
- ・運賃協議会も開催予定である。

5. 閉会

- ・事務局より閉会の辞